

# 人権教育指導者研修会

研 座 演 沙 資 映 他 体 7

群馬県教育委員会  
利根教育事務所生涯学習グループ  
TEL 0278-23-0165

|              |   |
|--------------|---|
| 実施年月日<br>実績等 | 実施年月日：第1回=平成16年7月3日(土)、第2回：平成16年9月28日(火)<br>参加人数：第1回=のべ221人、第2回=のべ30人       |
| 主催(共催)       | 群馬県教育委員会  |
| 開催場所         | 第1回=川場村文化会館<br>第2回=沼田合同庁舎   |
| 対象           | 第1回=社会教育団体、市町村社会教育行政職員、一般県民<br>第2回=市町村社会教育主事、市町村行政職員、市町村人権教育推進協議会委員、社会教育委員等 |
| 人権課題         | 第1回=子ども<br>第2回=人権全般   |

## 事業の目的

社会教育指導者を対象に、人権問題に関する理解と認識を深めるとともに、人権教育に必要な技能と資質の向上に努めるのが目的。さまざまな人権問題の解決や豊かな人権感覚を育成するための具体的な方策について研究協議し、指導者としての資質の向上を図っていく。

この研修会は毎年、県の生涯学習課が実施し、県内に5か所ある教育事務所がそれぞれで2回ずつ開催している。企画などは教育事務所が独立して立案しており、本事例は利根地域を管轄する利根教育事務所生涯学習グループが担当した。

## 事業概要

### ●第1回

- ①参加型学習：「子どもの人権について」参加者の意識を把握する。
- ②講演：「子どもの人権について～トラウマ体験からの回復のために～」  
講師：聖マリアンナ医学研究所副所長・藤森和美さん

- ③ビデオ視聴：人権啓発ビデオ「いのち輝くとき」
- ④参加型学習：研修の振り返り

社会教育関係団体、特にPTA関係者が主要対象だったので、「子ども」をテーマにした人権課題を扱った。また、一般県民の参加も募ったこともあり、より普遍的な内容で構成した。

はじめの参加体験型学習では、全員が「人権と聞いたとき、どんな言葉を思いつくか」をワークシートに書き込み、参加者一人ひとりを指名してその内容を発表してもらった。自分以外の参加者が持つ人権のイメージを認識したうえで、今後の学習に役立ててもらおうのが狙いである。

講演、ビデオ視聴では子どもの人権に関する具体的な事例に触れ、参加型学習でそれらの内容を踏まえて議論を展開した。「子どもの人権を守るために自分で何ができるか」「もっとたくさんの人間が集まったら、子どもの人権擁護に関してどんなことができるか」といったテーマで話が進んでいった。なお、ファシリテーターは利根教育事務所のスタッフが



務めた。

### ●第2回

- ①ビデオ視聴：「人権－ファシリテーターへの道しるべ－」
- ②〈参加型学習初心者コース〉：「ワークショップの体験」  
〈参加型学習経験者コース〉：「ワークショップの進め方」



第2回は純粋に社会教育関係各団体の指導者を育成することに主眼を置き、人権に関する参加型学習を実際に行うためのノウハウを指導した。

利根教育事務所では平成13年から参加型学習を行っているため、古くから研修を受けてきた人と、初めて参加した人では知識や経験、指導力に差があることがあらかじめ予想された。そこで、初心者コースと経験者コースの2つを設け、より効果的に学べるように配慮した。

初心者コースはファシリテーター付きのワークショップとは何ぞやが理解できるような基本的な内容で進められた。一方の経験者コースは参加者自らが研修会でファシリテーターの役割を担うことを想定。いくつかのアクティビティを通してファシリテーターとしての立ち回り方などを学んだ後、グループ内で実際にファシリテーター役を実践してもらうといったプログラムが組まれた。

## 連携状況

第2回の経験者コースでのファシリテーターに、参加型学習の経験が豊富な公立学校の元教諭を招いた。

## 特色・工夫した点

- 社会教育団体などの公的機関に所属する人たちが対象の研修会だが、平成15年度の研修会では障害を持つ子どもたちの劇団が登場したのをきっかけに一般県民との繋がりができた。そこで、平成16年度は第1回のみ、一般県民にも研修会を開放。ウェブなどで告知することで、のべ221人も参加者を集めることに成功した。
- 講演やビデオ視聴により理解を深めるとともに、参加型学習でより主体的に課題をとらえたり、気づいたりできるようにした。

## 実施結果

### 参加者の反応・事業の反響等

#### ●第1回の参加者の反応

- 大人の尺度、大人のエゴで子どもに接することが多いことに気づいた。相手の立場に立って、あせらずゆっくりと愛情を持って、子どもと接することの大切さを学ぶことができ、非常に有意義な研修だった。
- 子どもの悩みの原因がどこにあるかを見極めることの大切さがよくわかった。
- 双方向の研修に工夫が凝らされていたことがよかった。

#### ●第2回の参加者の反応

- 〈初心者コース〉
- 気づくことの大切さに気づいた。
  - 各個人がいろいろな意見を持っていることを理解できた。
  - 言葉かけの大切さとふれあうことの大切さを学んだ。

〈経験者コース〉

- 他人に投げかけ、話をするので気づく部分が多かった。
- ファシリテーターを実践してみて、参加型学習・ワークショップの流れがわかってよかった。

第1回の研修会では子どもの人権を守るのは周囲の大人の責任だという点が浮き彫りになった。また、各個人の立場、地域や行政の立場を深く考えるきっかけにもなった。

ワークショップを実施した第2回は、多様な意見交換によって人権を身近な問題として捉えることができ、人権意識の向上を図る絶好の機会となった。

## 反省点・今後の課題

特に第2回の研修は、人権週間と結びつけて開催すると、より高い効果が望めたのではないかとと思われる。



※写真は平成17年度の研修会のおよす